

# Ontario Common Assessment of Need (OCAN) によるニーズアセスメント

— Mount Sinai Hospital ACT チームにおける活用をもとに—

力 久 愛

## 1. はじめに

カナダ・オンタリオ州トロント市で活動する Mount Sinai Hospital ACT チーム（以下 MACT）は、重度精神障害者のための訪問型の地域精神医療支援である ACT プログラムを実践している。活動地域には移民が多く、MACT のクライアントは白人以外の民族（中国系、韓国系、ベトナム系、タミル系など）に限定されている。そのためスタッフも全員多民族である。

Ontario Common Assessment of Need（以下 OCAN）は、MACT において用いられているニーズアセスメントツールである。現在オンタリオ州の多くのメンタルヘルス支援機関で利用されている。筆者は、2010 年と 2012 年に行った MACT でのソーシャルワーク研修において、OCAN およびその利用実態に深く関わる機会をもった。そして、OCAN は利用者の支援計画作成等に非常に役立っているものと実感した。我が国では、クライアントのニーズを測る統一されたアセスメントツールはほとんど使用されていないのが現状である。このような現状を鑑みるに、OCAN について紹介することは極めて意義がある。本稿では、OCAN の構造や内容について紹介する。なお、現在筆者は日本語での OCAN 作成を試みており、いずれは、OCAN 日本版を作成する予定である。

## 2. OCAN とは

2005年に、オンタリオ州政府保健省と連携して障害者の長期的な予後改善に取り組むことを目的に組織された Community Care Information Management (以下 CCIM) は、2006年からメンタルヘルス分野におけるオンタリオ州共通のアセスメントツールである「OCAN」の開発に取り組んだ。当時オンタリオ州では、それぞれの支援機関で異なる独自のアセスメントが実施されており、クライアントは、新しいサービスや機関を利用する度に各アセスメントを受けなければならなかった。そのため支援関係者やクライアントの間では、より効率的で共通したアセスメントプロセスの開発が求められていたのである。さらに、提供される支援サービスの重複を防ぎ、クライアントと支援者間のニーズに対する認識、および必要と感じる支援サービス内容の相違を特定するため、より質の高い多くの情報が必要であると考えられた。

CCIM 専門委員会での複数回の予備調査と分析を経て、OCAN は 2010 年から本格的に州各地で実施され始めた。OCAN は、独自のアセスメントプロセスのもと、確実に効率的な方法で利用者の情報を集約し、個別のニーズを特定する。具体的には、クライアントの基本情報の収集、クライアント自身が行うセルフアセスメントと支援者によるスタッフアセスメント、双方の面談等を通して、現在の生活において特に問題のない「ニーズのない領域 (No Need)」、ニーズはあるがすでに適切な支援サービスを受けている「満たされたニーズ (Met Need)」、支援サービスを受けている、いないに関わらず、対応が必要とされる「満たされていないニーズ (Unmet Need)」を明らかにする。正確に特定されたニーズに対し、確実に最適な支援サービスを提供するものである。

## 3. OCAN の構造

OCAN は、主に「クライアントの基本情報」、「クライアントによるセルフアセスメント」、「支援者によるスタッフアセスメント」、「メンタルヘルスサービ

ス利用記録」から成る。

### 3.1 クライアントの基礎情報

OCANにおけるクライアントの基本情報には、名前や住所、性別、生年月日のほか、OCAN実施責任者や実施に至った経緯、現在利用中の中心的な支援サービス機関、保護者や主治医、精神疾患の発症年齢や最初の入院期間などを記録する。OCAN実施にあたり、クライアント個別の基本的な情報を確実に得ることが目的である。

### 3.2 クライアントによるセルフアセスメント

クライアント自身が行うセルフアセスメントは、生活環境に即した24項目の質問が用意されている。それらは、「宿泊所」、「食事」、「家の管理」、「セルフケア」、「日中活動」、「身体的健康」、「精神症状」、「状態と治療に関する情報」、「心理的苦痛」、「自傷」、「他害」、「アルコール」、「ドラッグ」、「その他の依存症」、「交友関係」、「親密な他者」、「性的なこと」、「育児」、「頼れる他者」、「基礎教育」、「電話・通信」、「移動」、「金銭管理」、「福利」に関するものである。具体的な質問内容は、表1に示す。クライアントはすべての質問に対して、「この領域は、私にとって全く深刻な問題ではない (No Need: ニーズのない領域)」、「この領域はすでに支援を受けているため、私にとって深刻な問題でない (Met Need: 満たされたニーズ)」、「この領域は、支援を受けていない、もしくはどんな支援を受けているにも関わらず、深刻な問題のままである (Unmet Need: 満たされていないニーズ)」、「この質問には答えたくない (I don't want to answer)」のうち、最も適切と思うものを選択することができる。すべての項目にはコメント欄があり、補足的な情報があれば自由に記入する。さらに、「あなたの将来に対する希望は何ですか。」、「あなたはその希望を実現するために、何が必要だと思いますか。」、「あなたは自分自身の精神状態についてどう感じていますか。」、「あなたは人生において、スピリチュアリティを大切にしていますか。」、「あなたの人生において、文化や慣習は大切ですか。」の5つの質問

#### 4 Ontario Common Assessment of Need (OCAN) によるニーズアセスメント

に、自由記述で答えることができる。セルフアセスメントの流れは、図1に示す。クライアントは、セルフアセスメントを完成させる際、必要であれば家族やピアサポートワーカー、支援者からのサポートを得る。セルフアセスメントは、クライアント自身が今の生活状況を把握して課題となるニーズに気づき、今後の生活への見通しを持つ機会となる。さらに、次のスタッフアセスメントや面談を通して、それらを他者と共有することができる。

表1：セルフアセスメントの質問内容

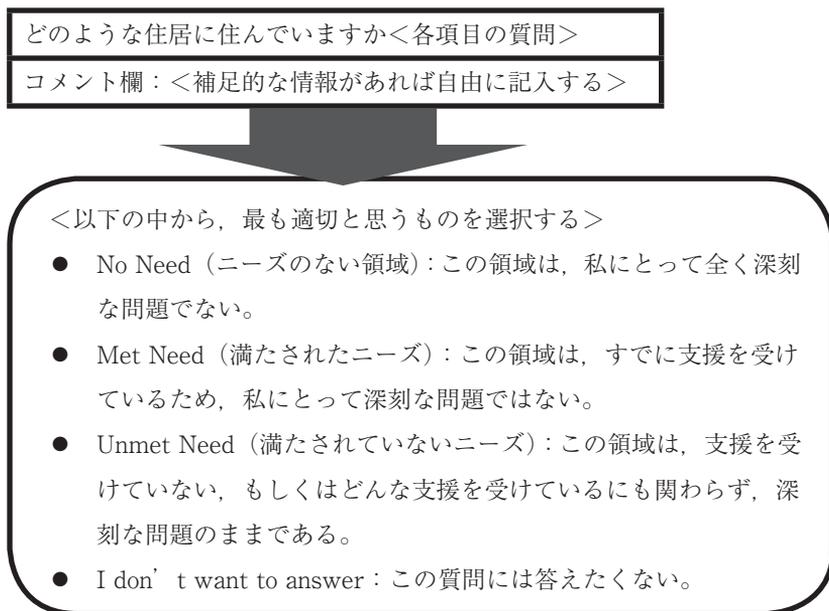
	<項目>	<質問内容>
1.	宿泊所	どのような場所に住んでいますか。
2.	食事	十分な食事がとれていますか。
3.	家の管理	住居環境を整えることができますか。
4.	セルフケア	自分の身体をきれいかつ清潔な状態に保つことができますか。
5.	日中活動	毎日をどのように過ごしていますか。
6.	身体的健康	身体の調子はどうですか。
7.	精神症状	今まで幻聴があったり、自分の考えに問題が生じたことがありますか。
8.	状態と治療に関する情報	薬または他の治療に関する十分な情報を受けていますか。
9.	心理的苦痛	最近非常に悲しい、もしくは気分が落ち込むと感じたことがありますか。
10.	自傷	今まで、自分自身を傷つけようと思ったことがありますか。
11.	他害	他の人に危害を加えようと思うことがありますか。
12.	アルコール	飲酒によって何か問題が生じることがありますか。
13.	ドラッグ	違法な薬物を服用していますか。
14.	その他の依存症	たとえばギャンブルのような、何か依存症はありますか。
15.	交友関係	あなたは、幸せな社会生活が送れていると思いますか。
16.	親密な他者	あなたには、パートナーがいますか。
17.	性的なこと	性的なことに関して、何か問題はありますか。

6 Ontario Common Assessment of Need (OCAN) によるニーズアセスメント

18.	育児	18歳未満の子どもがいますか。
19.	頼れる他者	高齢の両親や愛するペットといった、子どもの他に頼れる存在がいますか？
20.	教育	読み書きや理解に問題がありますか。
21.	電話・通信	電話の使い方がわかりますか。
22.	移動	バスや電車の利用方法がわかりますか。
23.	金銭	自分の金銭を適切に管理することができますか。
24.	福利	各種年金や免除規定などの受けることのできるすべての支援を受けていますか。
●	あなたの将来の希望は何ですか。	
●	あなたはその希望を実現するために、何が必要だと思いますか。	
●	あなたは自分自身の精神状態についてどう感じていますか。	
●	あなたは人生において、スピリチュアリティを大切にしていますか。	
●	あなたの人生において、文化や慣習は大切ですか。	

図1：セルフアセスメントの流れ

※「宿泊所」の項目における例



### 3.3 面談

セルフアセスメントが終了すると、その結果を受けたスタッフは、クライアントとの面談を設定する。これは、クライアントが答えた内容について、疑問点やさらに詳しく知らなければならないことを直接尋ねるものである。特に、クライアントが「Unmet Need (満たされていないニーズ)」と答えた部分に注目し、「Met Need (満たされたニーズ)」へ導くことが重要となる。クライアントの思いや意見を聞き、スタッフが考えるニーズとの相違を判断したり、解決に向けて取り組むべきニーズを共有して今後の取り組みを確認したりする。この面談を通し、ニーズについての両者の認識を明らかにするのである。

### 3.4 スタッフによるアセスメント

スタッフが実施するアセスメントの項目は、クライアントと同様である。しかしその内容は異なり、クライアントの状況をより明確に詳しく把握するものとなっている。たとえば、「宿泊所」の項目では、「どのような場所に住んでいますか。」という質問に加え、「それはどの種類の場所ですか。」という質問がある。クライアントの宿泊所が、実家や民間のアパートなのか、もしくはグループホームなどの支援付き住宅なのか、または救護施設等を利用中であったり、特定の宿泊所がない状況であるのかなどといった、具体的な場所や状況を調査しなければならない。スタッフアセスメントの具体的な内容は、表-2に示す。

さらにスタッフは、項目に対する評価として、「クライアントは、その領域は自立しており支援の必要がない (No Problem)」、 「クライアントは、その領域はすでに支援やサービスを受けているためほとんど問題ではない (No/Moderate problem due to help)」、 「クライアントは、その領域は支援を受けていない、もしくは支援を受けているにも関わらず、深刻な問題である (Serious problem)」、 「不明 (Unknown)」の中から、クライアントの状態に最も適切なものを選択する。ここで、「No/Moderate problem due to help」、 「Serious problem」に選択された場合、親類や友人らからのインフォーマルな支援サービス、または施設や機関によるフォーマルな支援サービスをどのくらい受けているのかを評価する。フォーマルの場合、現在の提供状況に加え、実際はどのくらいの支援を必要としているのかを評価しなければならない。それらの答えは、「まったく受けていない (None)」、 「低度の支援 (時々、または必要なときのみの支援: Low help)」、 「中度の支援 (定期的な支援: Moderate help)」、 「重度の支援 (頻回な支援: High help)」、 「不明: Not Known」から選択する。また、必ずどの人物や機関によりそれらの支援サービスが提供されているのかを特定し、重要な補足的情報はコメント欄に記入しておく。スタッフは、一連のOCANの項目評価が終了した後、全体で最も優先して解決すべきニーズの順位を設定し、まとめとなる報告書を作成する。スタッフアセスメントの具体的な流れを示したもの

が、図 2 である。

表2：スタッフアセスメントの質問項目

	<項目>	<質問内容>
1.	宿泊所	クライアントは、どのような場所に住んでいますか。 それは、どの種類の場所ですか。 (宿泊所の種類を選択する)
2.	食事	クライアントはどのような食べ物を食べていますか。 自分自身の食事を用意したり、買物をするができますか。
3.	家の管理	クライアントは、住居環境を整えることができますか。 誰かクライアントを助けてくれていますか。
4.	セルフケア	クライアントは、自分の身体をきれいかつ清潔な状態に保つことができますか。 誰かに注意や助言をしてもらうことが必要ですか。
5.	日中活動	クライアントは、毎日をどのように過ごしていますか。 日中何かすることがありますか。 (状況の種類(雇用や就労など)を選択する)
6.	身体的健康	クライアントの身体の調子はどうですか。 身体的な疾患に対して、何か治療を受けていますか。 (病状や服用中の薬の選択、その名称を記入する)
7.	精神症状	クライアントは今まで幻聴があったり、自分の考えに問題が生じたことがありますか。 薬か注射を処方されていますか。 (具体的な精神症状を選択し、入院歴を記入する)
8.	状態と治療に関する情報	クライアントは、薬または他の治療に関する十分な情報を受けていますか。 その情報はどのくらい役に立っていますか。 (疾患名を選択する)
9.	心理的苦痛	クライアントは、最近非常に悲しい、もしくは気分が落ち込むと感じたことがありますか。 深刻な不安や恐怖を感じたことがありますか。

10.	自傷	クライアントは、今まで、自分自身を傷つけようと考えたことがありますか。 実際に自分自身を傷つけたことがありますか。 自分自身を何らかの方法で危険な状態にさらすことがありますか。 (過去の自殺行為の有無や内容、現状を記入する)
11.	他害	クライアントは、他の人に危害を加えようと思うことがありますか。 今までカッとなって人を殴ったことがありますか。
12.	アルコール	クライアントは、飲酒によって何か問題が生じることがありますか。 飲酒を減らすことを望んでいますか。 (飲酒の頻度と現状を記入する)
13.	ドラッグ	クライアントは、違法な薬物を服用していますか。 やめることが難しい薬物はありますか。 (違法薬物の種類と現状を記入する)
14.	その他の依存症	クライアントは、たとえばギャンブルのような、何か依存症はありますか。 (依存症の種類と現状を記入する)
15.	交友関係	クライアントは、幸せな社会生活が送れていると思っていますか。 もっと多くの人と関わることを望んでいますか。
16.	親密な関係	クライアントには、パートナーがいますか。 パートナーとの関係や婚姻関係に何か問題が生じていますか。
17.	性的なこと	クライアントの性的なことに関して、何か問題はありますか。
18.	育児	クライアントには、18歳未満の子どもがいますか。 子どもの養育に、難しいことがありますか。
19.	頼れる他者	クライアントには、高齢の両親や愛するペットといった、子どもの他に頼れる存在がいますか？ 彼らとの関わりや世話をするのに、難しいことがありますか。

12 Ontario Common Assessment of Need (OCAN) によるニーズアセスメント

20.	教育	クライアントは、言語の読み書きや理解に問題がありますか。 (最終学歴を選択する)
21.	電話・通信	クライアントは、電話の使い方がわかりますか。 パソコンやインターネットなどの通信手段を簡単に 利用できますか。
22.	移動	クライアントの移動手段は何ですか。 無理せずバスや電車の利用方法がわかりますか。
23.	金銭	クライアントは、どのように自分の金銭を管理して いますか。 請求書の支払いなどに、困難がありますか。 (主な収入源を選択する)
24.	福利	クライアントは、各種年金や免除規定などの受ける ことのできるすべての支援を受けていますか。
●	あなたの将来の希望は何ですか。	
●	あなたはその希望を実現するために、何が必要だと思いますか。	
●	あなたは自分自身の精神状態についてどう感じていますか。	
●	あなたは人生において、スピリチュアリティを大切にしていますか。	
●	あなたの人生において、文化や慣習は大切ですか。	

図2：スタッフアセスメントの流れ

「宿泊所」の項目を例として

クライアントは、どのような場所に住んでいますか。  
それは、どのような種類の場所ですか。

クライアントには、現在住む場所がありますか。

0. No problem：クライアントは、その領域は自立しており支援の必要がない

1. No/Moderate problem due to help：クライアントは、その領域はすでに支援やサービスを受けているためほとんど問題ではない

2. Serious problem：クライアントは、その領域は支援を受けている、または受けていないに関わらず深刻な問題である

9. Not Known：不明

1 もしくは 2 の場合

1. クライアントは、宿泊所に関して親類や友人らからどのくらいの支援を受けていますか。

2. クライアントは、宿泊所に関して施設や機関からどのくらいの支援サービスを受けていますか。

3. クライアントは、宿泊所に関して施設や機関からどのくらいの支援サービスを必要としていますか。

- None：まったく支援を受けていない
- Low help：低度の支援（時々、または必要なときのみである）
- Moderate help：中度の支援（定期的である）
- High help：重度の支援（頻回である）
- 不明

コメント欄（補足的情報）：

誰もしくはどの機関により支援サービスは提供されているのか：

24 項目評価修了後

優先順位	項目（領域）	支援内容（具体的な取組み）
①		
②		
③		

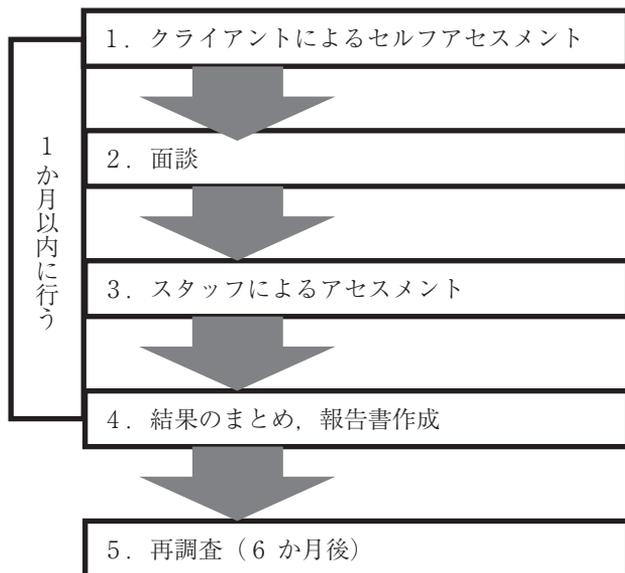
### 3.5 メンタルヘルスサービス利用記録

スタッフは、クライアント個別のこれまでのメンタルヘルス支援サービス利用記録を作成する。これは、どの種類の支援サービスをどのくらいの期間利用していたのか、それらが必要とされた背景や、利用を終了した理由なども明らかにする。これにより、クライアントの病歴や生活歴をふまえ、どの支援サービスが利用者のニーズを満たし、有効であったのかを把握し、現在の支援に生かす。

#### 4. OCAN のプロセス

OCAN の簡潔なプロセスを図3に示す。実施にあたり、まずクライアントに、使用の目的や機関での活用の仕方を十分に説明し、同意をとらなければならない。セルフアセスメント完成後の面談は、場所や時間は厳密に設定されず、訪問時の普通の会話の中で尋ねられることもある。その後スタッフアセスメントの完成により、ニーズの優先順位および具体的な支援内容が特定され、報告書が作成される。OCAN は、すべてのプロセスを開始日から1か月以内に完成させなければならないと決められている。6か月ごとに再調査され、前回課題であったニーズの充足度や支援の現状などが評価されるとともに、様々な情報も最新のものに更新される。

図3：OCAN 実施のプロセス



## 5. MACT における OCAN の活用

ここでは、MACT の実践における OCAN の活用の仕方について説明する。

MACT は、2010 年から OCAN を実施している。初めにチームのリーダーであるプログラムマネージャーと代表スタッフ 1 名が CCIM による OCAN の専門研修を受けた後、チーム内で OCAN の勉強会を実施し、スタッフ全員でその知識や技術を共有した。

OCAN は、週 3 回のクライアント個別のレビューの際に用いられる。時間はおよそ 1 時間から 1 時間半程度である。これは、スタッフ全員が参加して行うケース検討のようなもので、ひとりのクライアントに焦点を当て、これまでの経過をふまえながら現在の精神症状やニーズ、生活状況や今後の支援の見通しなどを話し合う。基本的に OCAN の結果をもとに進められ、担当となったスタッフは、事前に対象のクライアントに OCAN を実施して結果をまとめておく。この内容は、当日前方のモニターに映し出されながら口頭で報告される。具体的には、クライアントの基本情報、セルフアセスメントおよびスタッフアセスメントの内容、面談等から特定されたニーズの優先順位と、それぞれに対する支援計画が報告される。MACT では、OCAN における個別の基本情報に加えて、独自に「現在の症状に至るまでの病歴」、「クライアント自身による病気の説明」、「本人の病識のレベル」、「家族の精神病歴」、「個人史」、「家族史」、「民族文化歴（移民の理由など）」、「現在の精神状態」、「医師の所見」が詳細に記述されており、必ず口頭で説明される。これらの項目は、本人も含め、家族や友人、支援者、これまでの関係機関の職員たちからの聞き取りなどをもとに、極めて細かく調査されたものである。レビューでは、OCAN すべての項目の結果が逐一説明されるのではなく、モニターで結果を示しつつ、スタッフが特に優先度が高いと判断したニーズの項目や、OCAN を実施する中で得た新しい情報などについて簡潔に述べる。その他のスタッフは、クライアントの症状のみではなく、生活歴も含めた経過を知り、全員で今後の支援内容を検討する。情報が曖昧な部分やさらに詳しく調査する必要があるもの、今後の取り組みや

支援計画などに対して多くの質問や意見が出される。

## 6. MACT での OCAN 活用の目的

MACT における OCAN 活用の目的は、「ニーズの特定と支援計画の作成」,  
「クライアント個別の詳細な情報収集」, 「スタッフ間の情報共有」の大きく 3  
つに分けることができると考えられる。

### ①ニーズの特定と支援計画の作成

MACT では、OCAN を利用してより正確なニーズを特定する。OCAN では、決められたプロセスに沿って、クライアントとスタッフ双方が同じ項目のアセスメントを行う。そのため、ニーズに対する意見の相違を避け、最も支援サービスが必要となるものへの共通した認識を得ることができる。また、調査項目や質問の内容は、生活を包括的に捉えるものであり、より現実に即したクライアント個別のニーズが明らかになると考えられる。これらのニーズが満たされることにより、基本的な生活の基盤が整うだろう。また OCAN は、支援計画の作成にも有効に活用される。明らかになったニーズの解決に向け、取り組むべき優先順位を設定するため、より緻密で計画的な支援が作成される。さらに OCAN は、6 か月ごとにニーズ充足の達成度や支援の効果をモニタリングする必要があるため、支援の継続性を保ちながら、計画に沿った適切な支援サービスが提供できているのかを確認することにも役立つ。

### ②クライアント個別の詳細な情報収集

OCAN の調査項目の内容は、極めて詳細である。たとえば、薬の項目では、過去に使用した薬も含め、それぞれの名称や量、使用期間などを正確に記録している。精神症状の領域では、入院歴や具体的な現在の状態（「幻覚」「妄想」「不安」「怒り」「恐怖」など）を正確に調査する。また、住居や日中活動なども、その形態や場所などを特定しており、友人やペットなどの存在や他者との

関わりについて問うものもある。さらに MACT では、これらの OCAN からの詳細な情報に加え、個別の生活歴や家族史、病歴などを把握することも重要としている。これまでの経過を知り、再発の兆候やその背景となるものを探る際に活用するためである。OCAN 実施に合わせてより多くの確実な情報を収集し、クライアントを取り巻く状況全体を把握することにより、高度な個別的な関わりや支援を実現している。

### ③スタッフ間の情報共有

現在 MACT では、スタッフ 13 名で約 100 人のクライアントを支援しており、スタッフ全員が担当のクライアント以外のことを知る機会はほとんどない。そのため、OCAN を利用したレビューでは、クライアント個別の詳細な情報を全員で共有する。クライアントのこれまでの経過および現状、さらに OCAN から明らかになった症状や生活に関するニーズなどである。スタッフ全員が個別の情報を詳しく把握することにより、今後の支援内容や対応の在り方について、具体的で有効な助言やアドバイスが可能になると考えられる。

一方で、レビューでの OCAN の報告は、すべてのスタッフが新しい知識を共有できる場でもある。たとえば、クライアントが聞きなれない疾患や障害を持っていた際、医師がその場で症状や治療法を説明することがある。ある日のレビューでは、OCD (Obsessive Compulsive Disorder) という強迫性障害を持つクライアントについて、医師が「OCD は、何度も手を洗いに行くなどの症状があるが、“自分でもおかしいと思っているがやめられない”というクライアントの思いを理解して関わるべきである。」と説明している場面があった。このように、OCAN を用いた報告では、ニーズや支援内容についてのみではなく、新しい疾患や障害の症状、その対応についての新しい知識の共有も行われる。

## 7. まとめにかえて—今後の展望—

本稿では、オンタリオ州共通のアセスメントツールである OCAN を紹介し、

その具体的な活用の仕方を MACT の実践をもとに説明した。我が国では、たとえば、食事や衣服の着脱、入浴や排せつなどが「できる」、「できない」といった能力や技能を測るアセスメントは存在するが、それらに関して、「支援サービスのニーズがあるのか」、または「必要な支援サービスが適切に受けられているかどうか」というように、ニーズの有無や支援サービスの提供状況に焦点にあて、測定するアセスメントツールはほとんど使用されていないだろう。我が国でも OCAN のようなツールが活用されることにより、正確なニーズアセスメントに基づく効果的な支援サービス提供が可能になると考えられる。今後は、文化的な観点もふまえて OCAN の項目や評価、需要の工夫を検討し、新しい日本版の OCAN 作成に取り組む。さらにそれらを試験的に実施し、適用することにより、その妥当性について検討したい。

---

参考資料

- (1) Community Care Information Management(2010.3) 『Ontario Common Assessment of Need: User Guide』
- (2) Community Care Information Management(2010.3) 『Ontario Common Assessment of Need: Staff Assessment』
- (3) Community Care Information Management(2010.3) 『Ontario Common Assessment of Need: Consumer Self-Assessment』
- (4) Community Care Information Management(2010.3) 『Ontario Common Assessment of Need: Full OCAN』
- (5) Wendy Chow(2014) 『The practices of ACTT in Mount Sinai Hospital』

